

第2章 インバウンド観光発展期（1952～70）

1. 世界の中の日本の国際観光	1
両次大戦間の国際観光	1
国際観光の経済効果の認識 国際親善と国際理解のための国際観光	
戦後世界における国際観光の復興	3
公的観光機関国際同盟（IUOTO）の設立 マーシャル・プランと国際観光	
欧州旅行委員会（ETC）による共同宣伝の成果	
世界の観光をリードする米国旅行業者協会（ASTA）	6
一国の旅行業界を超えて アメリカ旅行業者協会（ASTA）略史	
太平洋・アジア地域の観光振興をめざして（PATA の誕生）	8
ハワイの先駆者たち PATA 設立のための会議 PATA の初期の組織と活動	
日本の国際観光界への復帰	12
観光関係国際機関への加盟	
観光基本法の制定と梶本観光局長	14
観光基本法制定の経緯 観光白書	
2. 日本政府観光局（JNTO）の誕生と発展	16
日本交通公社海外宣伝部と全日本観光連盟の時代（1950～55 年）	17
戦後の観光宣伝事始め 海外観光宣伝事務所の再開 全観連の外客接遇改善事業	
全観連の沿革 日本交通公社海外宣伝部から（財）国際観光協会へ	
財団法人「国際観光協会」の時代（1955～59 年）	21
（財）国際観光協会の設立 （財）国際観光協会の事業の概要 観光事業振興 5 か年計画の策定	
財団法人国際観光協会から特殊法人日本観光協会へ	
特殊法人「日本観光協会」の時代（1959～1964）	25
特殊法人日本観光協会の組織 定期採用のはじまり 大卒新規採用は JTB の受験者から	
1962（昭和 37）年の組織改正 新入社員の入社動機 日本観光協会から国際観光振興会へ	
OB 座談会：古きを訪ねて①（最初期の OB）	29
特殊法人国際観光振興会の時代（1）（1964～1970）	32
国際観光振興会の発足 堀木時代	
3. 初期の海外観光宣伝活動事業	34
海外事務所の宣伝活動	34
海外事務所のネットワーク サービス機能と宣伝機能 メディア・アシスタンス	
海外博覧会への参加 旅行者向けの宣伝活動	
本部による事務所活動の支援と連携	38
事務所管理と部内庶務 協力宣伝と添乗業務 海外催物への参加	
宣伝資料の作成	41
宣伝印刷物の作成 海外配布 映画と写真と美術 The New Official Guide to Japan の改訂	
国際観光機関関係の業務	44
EATA 日本支部 PATA 日本支部	
4. 外客接遇改善のための事業	45
外客受入体制改善という課題	46

言語と生活習慣の相違を超えて	オリンピックの東京開催決定で進んだ外客受入体制	
第一次ホテルブーム	外国人専用のパッケージツアー	外客接遇委員会
言語障壁の緩和		
外客向け総合観光案内所（TIC）の創設		50
TIC 東京案内所の開設	TIC 東京の開所披露	TIC 京都案内所の開設
オリンピック開催年の活動		53
善意ガイド運動	テレツーリスト・サービス	その他の事業
5. 調査研究		54
観光分野の調査統計小史		55
観光統計の始まり	戦後の国際観光統計と国際観光客の定義	観光研究の始まり
戦後の我が国の調査と統計		58
訪日外客統計	外客による観光消費額調査	「国際観光情報」の刊行
JNTO 調査部門の独立		60
調査室の設置	観光ライブラリーの整備	調査部の誕生
OB 座談会：古きを訪ねて（最初期の OB）	（続）	62
6. 新しい展開		68
コンベンション・ビューローの設立		69
貿易外輸出会議	任意団体日本コンベンション・ビューローの設立	
国際観光振興会が日本コンベンビューローを吸収	JNTO コンベンション・ビューロー室の組織	
コンベンション・ビューローの事業		
東アジア観光協会（EATA）誕生		76
EATA の設立	第 1 回年次総会	
堀木副会長の欧州視察旅行		76
突然随行者に	旅行日程	在外公館との協力体制
宣伝囑託員について	地域の共同宣伝	
観光資源の保護	観光行政と対外観光宣伝について	その他
官設観光機関国際同盟（IUOTO）東京総会の開催		83
参加者登録	開会式	同時通訳養成講座
国際観光年の記念行事		87
国連指定の国際観光年とは	日本が行った国際観光年記念行事の概要	
ASTA 世界観光会議の開催		91
PATA 東京総会		92
大坂万国博覧会		93
日本での万国博覧会	大坂万国博の広報	
OB 座談会：古きを訪ねて（国際機関関係担当の OB）		94